

## はじめに

聖書の女性を書き続けて十余年、本書は四年ぶりの出版で六冊目になります。この間に取り上げた女性たちは総勢三十名ほどになるでしょうか。初めの三冊まではエッセー風にしましたが、本書を含めて後の三冊は〈小説聖書の女性〉と銘しました。聖書には書き込まれていない女性たちの心情や状況に想像の筆を差し入れたからです。

本書には旧約聖書から、族長ヤコブに十二人の息子たちを産み競ったレアとラケルの姉妹を、新約からは、持っていた生活費レプタふたつをささげつくした女性を書きました。

レアとラケルのように、子どもの数を、夫の愛を獲得する武器に使うとは、現代の日本や少なくともキリスト教の影響を受けた欧米諸国には見られない特殊な習慣です。納得するには抵抗があります。しかし前時代的、あるいは不道徳の一言で片づけられるでしょうか。理由はともあれ、死にものぐるいの出産競争は、少子化問題が地球規模でかまびすしい現代世界への単純素朴な警鐘に聞こえるのです。『産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。』とは万物の創造主の厳肅な命令ですから。事実、神は彼女たちの胎をあわれみ、祝福したのです。

レプタふたつを神殿の献金箱にささげた女性はあまりにも有名です。代々の聖徒たちの称賛の的です。彼女は極度の貧困にもかかわらず、感謝にあふれて生活費全部をささげたのでした。その大胆な信仰が折から居合わせたイエス様の御目にとまり、即座に主の弟子訓練講座の教材に用いられ

ました。彼女の示した神様への一途な愛がいつも心に迫ってきます。まねがしたくて、今日まで彼女を追いかけてきました。

小説にしましたので、この美しき女性にベラカという名をつけました。また、ベラカの日々に直接かわる二人の女性には、ノアル、サラシャと名をつけました。この二人は想像の胎から生まれた人たちです。

レアもラケルも、レプタふたつの女性も、素朴でひたむきな神への思いを沸騰させながら、たくましく生き切りました。彼女たちの周辺には愛をはらんだ神の希望の風がそよいでいました。

とこしえに変わらない神のことばに立つて、美しき彼女たちのように澁刺と勇敢に限りある生命いのちを生き抜きたいと願います。